

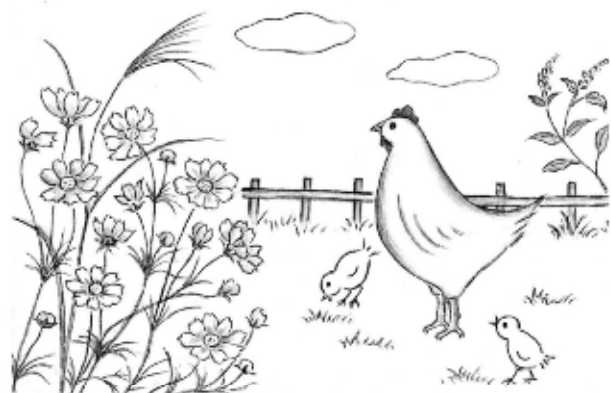
●三位・体後第一三主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第二十七編」

主はわたしの光、わたしの救い

わたしは誰を恐れよう。



## 救いはあなたにも

パウロがビシディア州のアンテイオキアにあるユダヤ人の会堂で、主イエスの話しをした次の週の安息日のことです。もつと話しを聞きたいと、ほとんど町中の人たちが、パウロのところに集まってきました。

ところが、それを見たユダヤ人たちはひどくねたみ、汚い言葉を言つて、パウロの言うことに反対したのです。

でも、パウロたちは勇敢に語りました。使徒言行録には、パウロだけでなく主イエスの弟子たちも勇敢に語つたと書かれています。弟子たちが強い気持ちを持っていたからでしょうか。

そうではありません。弟子たちの臆病な心の壁を打ち破るようにして、主が弟子たちに現れてくださったからです。そして今、神さまであられる聖霊が、弟子たちの中で語つておられるのです。

パウロは言いました。神さまの言葉はまずあなたたちに語られました。でもあなたたちはそれを拒んだ。神さまの言葉というのは主イエスのことです。そして、主イエス・キリストを受け入れないということは、自分で自分を永遠の命を得るのに値しない者になっているということなのです。

そしてパウロは、主が自分たちにお命じになられたから、わたしたちは異邦人の方へ行くと言います。「わたしは、あなたを異邦人の光と定めた。あなたが、地の果てにまでも、救いをもたらすために」。パウロはイエスさまが自分を「異邦人の光」に定められたと言うのです。

でもこれは不思議なことです。パウロはもともと、主イエスを受け入れず、主を信じる人々を迫害していた人なのです。でも主はパウロを異邦人の光としてお定めになったと言われます。

神さまは、パウロが生まれる前から、パウロのことを異邦人の光としてお定めになっていたのです。これは、パウロが自分で自分を永遠の命に値しない者になっていたのに、神さまはそう思われなかつたということです。だから、主イエスはパウロに呼びかけられました。迫害していたパウロが伝道者に変えられたのは、主イエスがパウロに出会つてくださったからです。

この後、永遠の命を得るよう定められていた人たちは、主を信じるようになりました。誰が永遠の生命に値するかを決めるのか。それは、わたしたちではありません。神さまです。神さまは、永遠の生命に値しないわたしたちを救うために、主イエス・キリストを送つてくださった方です。そして主は今、あなたを救うために、呼びかけておられます。

こうして主の言葉が広がって行つた一方、ユダヤ人たちはパウロたちを迫害し、町から追い出してしまいました。でも、弟子たちは喜んでいました。それは、どんなに邪魔をする人がいたとしても、神さまの救いを止めることはできないからです。どんなに自分で心を固く閉ざしていても、神さまは自分がおうとお定めになった人の心に入つて来られるのです。

詩篇 第二十九篇 (協会共同訳)

一 賛歌。ダビデの詩。

神々の子らよ、主に帰せよ。

栄光と力を主に帰せよ。

二 御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる装いで主にひれ伏せ

三 主の声は大水の上にあり

栄光の神は雷鳴をとどろかせる。

主は荒ぶる大水の上におられる。

四 主の声は力をもって

主の声は輝きをもって

五 主の声は杉の木を砕き

主はレバノン杉をも砕く。

六 子牛のようにレバノンを

野牛の子のようにシルヨンを踊らせる。

七 主の声は炎をひらめかす。

八 主の声は荒れ野をもだえさせ

主はカデシユの荒れ野をもだえさせる。

九 主の声は樫の木をもだえさせ

森を裸にする。

主の宮では、すべてのものが

「栄光あれ」と言う。

十 主は洪水の上に座し

主は王として、とこしえに座した。

十一 主がその民に力を与えてくださるように。

主がその民を祝福してくださるように

平安のうちに。

詩篇 第二十九篇 (新改訳2017)

ダビデの賛歌。

一 力ある者の子らよ、主に帰せよ。

栄光と力を主に帰せよ。

二 御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる装いをして主にひれ伏せ。

三 主の声は水の上にあり

栄光の神は雷鳴をとどろかせる。

主は大水の上におられる。

四 主の声は力強く

主の声は威厳がある。

五 主の声は杉の木を引き裂き

主はレバノンの杉を打ち砕く。

六 それらの木々を子牛のように

レバノンとシルヨンを

若い野牛のように跳ねさせる。

七 主の声は炎の穂先をひらめかせる。

八 主の声は荒野を揺さぶり

主はカデシユの荒野を揺さぶる。

九 主の声は雌鹿をもだえさせ

大森林を裸にする。

主の宮ではすべてのものが「栄光」と言う。

十 主は大洪水の前から御座に着いておられる。

主はとこしえに王座に着いておられる。

十一 主はご自分の民に力をお与えにされる。

主はご自分の民を平安をもって祝福される。

今日のお知らせ

○今日の礼拝後は特別な予定はありません。

○クリスマス礼拝で受洗、転入会をご希望される方は十月二日(日)までに願書を牧師宛ご提出ください。

詩篇 第二十九篇 (新共同訳)

一 賛歌。ダビデの詩。

神の子らよ、主に帰せよ

栄光と力を主に帰せよ

二 御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ、

三 主の御声は水の上に響く。

栄光の神の雷鳴はとどろく。

主は大水の上にあります。

四 主の御声は力をもって響き

主の御声は輝きをもって響く。

五 主の御声は杉の木を砕き

主はレバノンの杉の木を砕き

六 レバノンを子牛のように

シルヨンを野牛の子のように蹴らせる。

七 主の御声は炎を焚いて走らせる。

八 主の御声は荒れ野をもたえさせ

主はカデシユの荒れ野をもたえさせる。

九 主の御声は雌鹿をもたえさせ

月満ちぬうちに子を産ませる。

神殿のものみなほ唱える「栄光あれ」と。

十 主は洪水の上に御座をおく。

とこしえの王として、主は御座をおく。

十一 どうか主が民に力をお与えになるように。

主が民を祝福して平和をお与えになるように。



次週礼拝

● 第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 山辺に向かいて 461番

説教 「キリストの僕」

聖書 ガラテヤ一章11〜10節

説教者 菊池美穂子 副牧師

● 第二礼拝 (午前11時)

讃美歌 53番 321番

説教 「小さな者の一人にしたのが」

聖書 マタイ二五章31〜46節

説教者 黄允湜 牧師



## 第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 山辺に向かいて 461番  
説教 「すべてのことを書き記した」  
聖書 使徒1章1～2節(新約P213)  
司式 菊池 美穂子 副牧師  
聖餐司式 黄 允湜 牧師 ・ 菊池 美穂子 副牧師  
説教者 宮岡 彰広 兄

前奏曲「ミドルバリー  
(主の家に行こう、と人々が言ったとき)」  
D.カド

○讃美歌「山辺に向かいて」(1, 4番)

1. 山辺に向かいてわれ 目をあく  
助けはいずかたより きたるか  
あめつちのみかみより  
たすけぞわれにきたる  
4. み神はわざわざいをも さけしめ  
疲れしたましいをも やすます  
いずるおり、いるおりも  
たえせず汝を守らん  
アーメン

○讃美歌461番(1, 4番)

1. 主われを愛す、主は強ければ  
われ弱くとも 恐れはあらず  
※くりかえし  
わが主イエス わが主イエス わが主イエス  
われをあいす  
4. わが君イエスよ われをきよめて  
よきはたらきを なさしめたまえ  
アーメン

聖餐曲「タントゥム・エルゴ」 G.フォレ

後奏曲「父、み子、み霊のひとりのみ神よ」 H.F.ヘー

## 第二礼拝 (午前11時)

讃美歌 57番 388番  
説教 「少しのものに忠実であったから」  
聖書 マタイ25章14～30節(新約P49)  
司式 菊池 美穂子 副牧師  
聖餐司式 黄 允湜 牧師 ・ 菊池 美穂子 副牧師  
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「アンダンテ  
(フルートと低音のためのソナタより)」  
J.S.バッハ

○讃美歌57番(1・5番)

○讃美歌388番(1・3・5番)

聖餐曲「タントゥム・エルゴ」 G.フォレ

後奏曲「父、み子、み霊のひとりのみ神よ」 H.F.ヘー

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。